



神々の神事



「泣く子はいねが〜」。こう聞くだけで多くの人が、つり上がった目、太い角とキバ、そして出刃包丁を手にした秋田のナマハゲを思い浮かべることでしょ。正月やお盆に異形の神々が現れて家々を回り無病息災や豊穡をもたらすといた神事は日本の各地に伝わっています。このうち8県、計10件の『来訪神、仮面、仮装の神事』が、ユネスコの無形文化遺産に登録される見通しになったそうです。並べてみると、その奇抜さやユニークさには驚きます。宮古島のパーントゥは、泥だらけのつる草をまとい、鹿児島ボゼやメニドンの巨大な顔は、どこが何だかよく分からない。アートの実験場といったふうです。

こうした地域はいま過疎や高齢化に悩まされています。神事の担い手不足に直面し苦心する様子もあちこちで伝えられています。最近では子供を泣かすのは児童虐待だと言ひ、パーントゥに泥を塗られて怒りだす観光客もいるということです。神々を迎える側の移ろいも激しいようです。時代の流れは神事のあり方さえ変えてしまうかもしれません。昨今のハロウィーンまで続く日本人のコスプレの相性の良さを思わせる神々は、もちろん渋谷の交差点で騒いだり、車をひっくり返したりはしない。末永く地域の暮らしを見守り続けてほしい。

古里から神々が消え、やがて住む人もいなくなってしまう。そんな恐ろしい物語を聞けば大人だって泣いてしまうでしょう。

都商会 鎌野

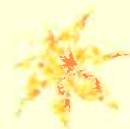


小松ライオンズクラブ



御殿場ライオンズクラブと姉妹提携している、石川県の小松ライオンズクラブの60周年記念に、行ってきました。大型バスで25名、片道8時間半の往復を一泊二日で慣行。正直言って疲れしました。ほぼ観光も出来ず、SAのたびにバスを降りて、小便をするみたいなことを2日間続けて居ると、何もしなくても疲れます。次回は少々費用が掛かっても、飛行機か新幹線で行ける身分になりたいです。小松ライオンズクラブさんは、ここ数年でメンバーが若返り、平均年齢が52歳になったということでした。これは平均年齢が御殿場よりも10歳以上若いという事になります。確かに60周年記念式典も、その後の懇親会でも皆さん非常に元気で、熱意溢れるおもてなしを受けました。お世話になり、ありがとうございました。2年後には御殿場ライオンズクラブが60周年を迎えます。大変参考になった周年でした。今度は御殿場ライオンズクラブが、小松ライオンズクラブの方々を精一杯おもてなししたいと思います。さて、ほぼ観光はできませんでしたが、金沢駅と場外市場でお土産を買う時間はありました。その際に感じたのは、やはり活気でした。新幹線が開通してから、やはり人の流れが変わったようで、金沢駅も場外市場も人で溢れ、そのうちの半分は外国人観光客でした。兼六園も外人さんで、一杯の様です。東京方面への物・人の流れも一層よくなり、名産の蟹やノドグロなども不漁の影響もあり高値が付き、地元の人が手を出しにくくなっている状況もあるようです。その辺は痛し痒しの様ですが、人間が集まってくるということは大きなチャンスです。とにかく活気と可能性を感じる、小松・金沢でした。地酒の「手取川」というのがとても美味しく、昼から飲みすぎちゃいました。それと金沢は古い文化が残る街で、お土産が和菓子・洋菓子をはじめ色々あり過ぎて、迷っちゃいました。金沢駅に行くと、まとめて色んなものが売っていますので、お出かけの際は寄ってみて下さい。まあ当分、バスには乗りたくないです。

英樹

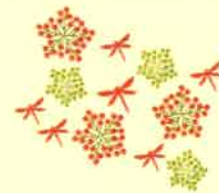


配り

第 234 便

勝亦製材駿河鉄骨樹

住まい塾御殿場教室
TEL (0550) 87-0048
FAX (0550) 87-1237
〒412-0035 御殿場市中山518番地



ひと月の二十五日を雨降ると

美美子が言いし屋久島を訪う

勝亦 りつ子

いつしらすおのおの定位置週一の

体操教室ひたに続け来

林 なをみ





奇跡の一枚を求めて。



先日、11/24日早朝、まだ日も昇らぬ漆黒の闇の中、箱根は公時神社の駐車場より、ヘッドライトの明かりを頼りに三脚と一眼レフカメラと防寒着を背負い、金時山の頂へと向かった。

4時、まだ空は夜の様相で冷たい空気を充満させている。見下ろすと仙石原の夜景が木々の隙間から輝いている。暫く林の中を登って行くとようやく空が白みはじめた。「マジックアワー」と呼ばれる夜と朝の境界の時間、群青からオレンジへと鮮やかなグラデーションで東の空が明るくなっていく。薄着でいたがジャケットの中は汗ばんでいる。山頂まで残り20分ほど、上着を脱いで口を潤す。黙々と歩みを進めて、70分。僕は山頂に立った。

まだ薄暗く冷たい風に晒されるというのに、既に山頂には数台の三脚が並んでいる。僕もその中の一脚として西の地平にカメラを向けた。空にはまだ雲が立ち込めている。

我々の祈りが通じたのか、まだ星の瞬く空の向こうに薄っすらと富士山の稜線が姿を現した。しかし山頂はまだ雲の中だ。満月から一日が過ぎたものの、まあい月が徐々に山頂に傾いていく、それに合わせ水平に広がった雲も動いていく。果たして奇跡の一枚を納めることができるのか。そう、その日の金時山山頂は月が富士山頂に沈むパール富士、そしてその時間がちょうど日の出と重なり朝焼けに染まる紅富士とが拝めるという日だったのだ。それには天候、と僕の休みも重ならなければ撮ることができない。月没、日の出、天候、撮影者のタイミングすべてが揃って初めて拝める景色なのだ。果たして僕はその奇跡に立ち会えたのか否か、それは新春の年賀状で明らかになります。うひひ。

柳田 敏和



秋深き今日此の頃

「・・・隣は何をする人ぞ」と発句を詠んだのは、ご存知松尾芭蕉です。今頃の時に病床で詠んだという。この後二週間経た日が命日という。それ程の病床に在り乍ら、こんな俯瞰した様な「かるさ」が晩年の句には、みられたという。こんな「かるさ」をイメージさせられるのが「リラックス」ではないでしょうか。

巷では、お肌の調子も、グランドゴルフ、歌唱にも「リラックス」が肝要と一様に説く。

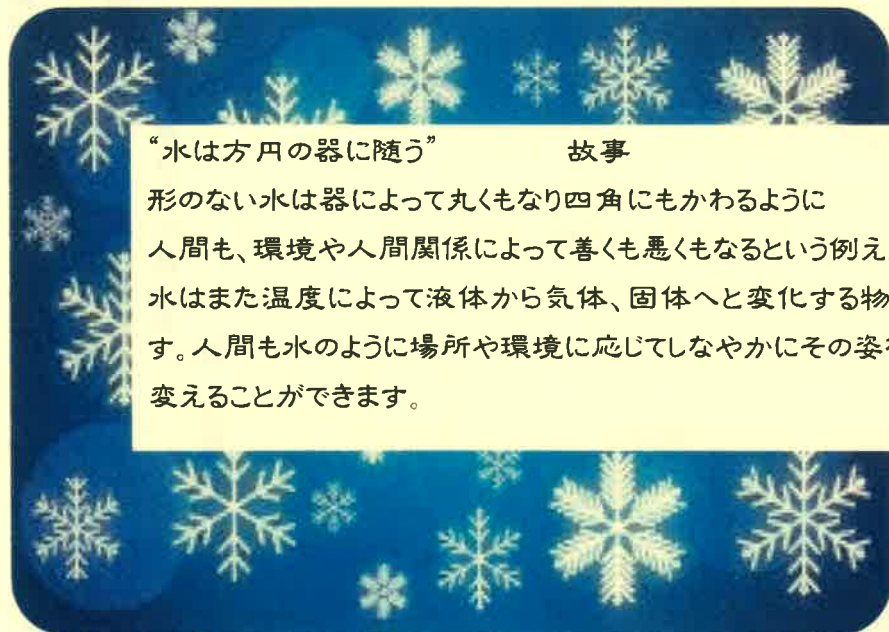
年末までに、障子の張り替え、カーテンの洗濯と、しなければならないことが目白押し。そういえば、扇風機三台縁側に除けてある。リラックスばかりもしていただけません。



お茶席

毎年恒例の『和文化体験』中学生相手にお茶を点て、雰囲気を楽しんでもらおうと。私はまだ皆さんの前でお茶を点てるのは、難があるため、お手伝い。着物を着て、割烹着きて。今回で3回目、中学1年だった子が3年になり、この子たちは、体験が3回目となる。私は、お手伝いなので、全体を見渡しながらか、お菓子(お饅頭)を食べられない子や、抹茶が苦手な子に対応する。正座が出来ない又は、正座をお点前中足が痺れて我慢できない子が毎回毎回いるのを見ていると、椅子文化になったなど。トイレも和式から様式になったのも大きい。だいたい先生が正座ができない!(それは、体型によるものですが)まあそれでも、少々の緊張となんとか触れる“和”の雰囲気は中学生にどうみえるのだろうか。自分達で点て友達に振る舞うお茶は、抹茶ラテのように甘くはないけれど、これから先の自分の人生も点て方によってみかたによって、器もおもてなしの気持ちも味も変わる。そこに作法も加わり、道具を大事にし、人を思いやる気持ちをもつ。と、今はわからないだろうなあ。やっとな、そんな感じ?って独自で考えているわたくし。考えることに意味があるとおもう。陽変天目茶碗を拝むのはまだまだですねえ。

ねがみ



“水は方円の器に随う” 故事

形のない水は器によって丸くもなり四角にもかわるよう
人間も、環境や人間関係によって善くも悪くもなるという例え。
水はまた温度によって液体から気体、固体へと変化する物質で
す。人間も水のように場所や環境に応じてしなやかにその姿を
変えることができます。